

経営比較分析表（令和4年度決算）

兵庫県地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院

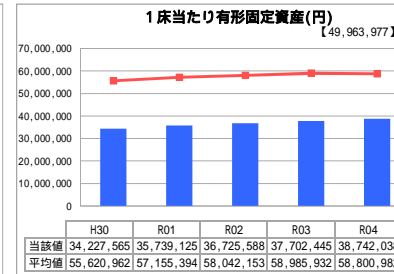
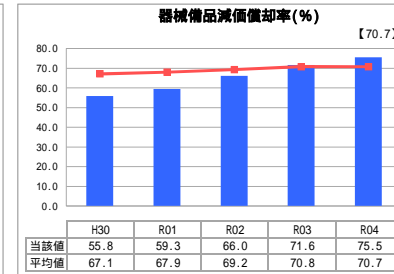
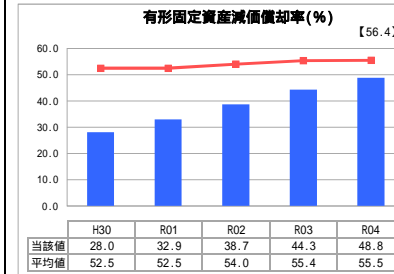
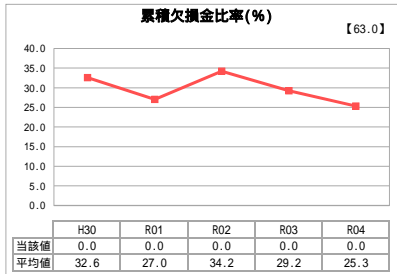
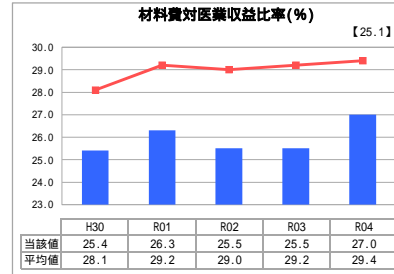
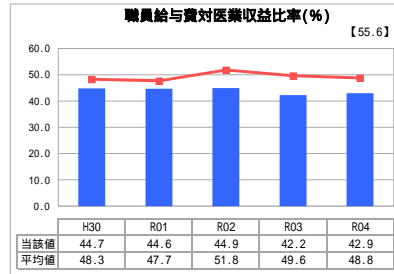
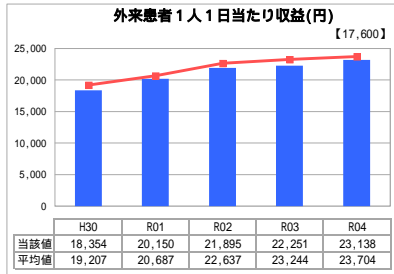
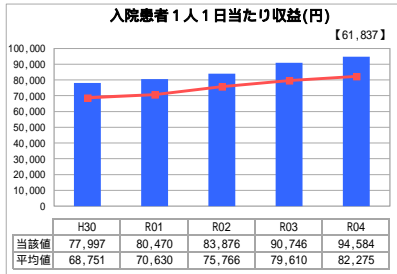
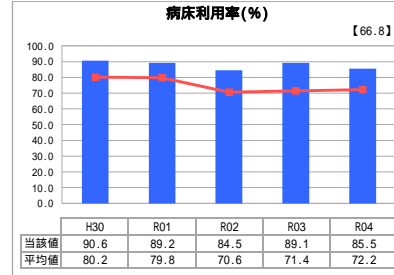
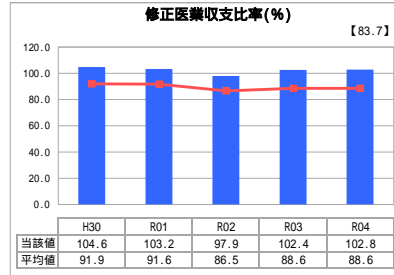
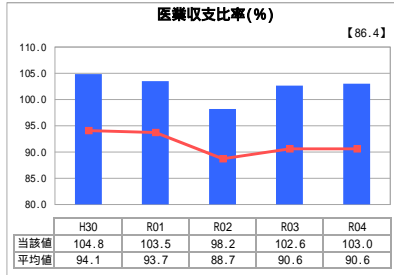
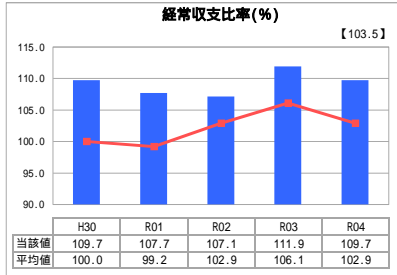
法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2
直営	33	対象	ド透1未訓ガ	救臨が地輪
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	61,794	非該当	非該当	7:1

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
600	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	600
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
568	-	568

グラフ凡例
当該病院値(当該値)
類似病院平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

- 1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン(放射線)診療
 2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輪...病院群輪番制病院

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

機能分化・連携強化 (従来の縦割・ネットワーク化を重視)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成28年度	平成28年度	-年度

地域において担っている役割
 加古川市をはじめ東播磨医療圏域において、高度急性期から急性期の機能を担っている。
 救急医療においては、2次救急医療機関として機能しており、特に循環器領域、小児・周産期領域においては、当該圏域を越え広く受け入れを行っている。
 また、地域の基幹病院として、消化器センター、心血管センター、こどもセンター、周産母子センター、がん集学的治療センター、呼吸器センターを設置し、これらの診療センターを中心に多くの診療科と連携しながら高度専門医療の提供を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院として、より充実したがん治療を提供している。

分析欄

- 経営の健全性・効率性について**
 新型コロナウイルス感染症患者の受入病床数を感染状況に応じて調整し、通常の医療への影響を適宜予測するなど、コロナ禍においても医療と経営の両立が図られている。また、各種経営指標のモニタリングや診療報酬改定への対策を講じるなど、収益の確保と費用の節減に取り組んだ結果、令和3年度に引き続き医業収支比率が100%を超えており、安定した経営状況を維持している。
 収入に関しては、患者1人当たりの収益が入院・外来ともに増加しており、収益も効率的に確保できている。費用に関しては、費用対効果に則して購入品を精査するなど、材料費の効率化を徹底した結果、材料費対医業収益比率が前年度と同水準に保たれており、効率的な病院運営が図られている。
- 老朽化の状況について**
 平成28年7月に新病院への移転に伴い、建物を新築していることや一定数の器械備品を更新していることから、有形固定資産減価償却率は他団体と比べても低くなっている。
 また、1床当たり有形固定資産も他団体より大幅に低くなっており、効率的な病院運営が図られている。
 現在、病院の増改築を進めているため、今後は1床当たり有形固定資産は増加する見込みとなっている。

全体総括

東播磨医療圏域における急性期・高度急性期医療を担う病院として、乳児から高齢者まで市民が安心して医療を受けることができるよう、地域の医療機関と役割分担や連携を図りながら、地域医療を支えている。
 令和4年度の経営については、物価上昇や電気料金の高騰、高度医療の推進による材料費の増加があるものの、コロナ禍において医療と経営の両立を図り、収益の確保と費用の節減に取り組んだ結果、全国の類似団体の平均値を上回った。

「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。